

No.257

1985年7月 第1号発行 平成18年

2006 November

11月 波紋



PUBUSHER: 森松株式会社
EDITOR: 梅田文康

第14回 「元気が出る森松展」

10月5日(木)～10月6日(金)の2日間、「第14回 元気が出る森松展」を開催しました。

今回のテーマ「情報最前線」～50執念 こだわりの新素材～ では、新素材・新商品・環境に配慮した商品など出展社数33社(新規出展社数3社)の仕入先様のご協力により、ご案内させて頂きました。他には、愛知県産業技術研究所から2名の講師を招き環境に関する講演も行われ、盛況のうちに無事終了する事が出来ました。これもご協力頂きました皆様のお陰でございます。心より御礼申し上げます。また、ご多忙中のところご来場賜りましたお客様へも重ねて御礼申し上げます。

今回の森松展では、来場者の皆様にアンケートをお願いしました。その意見を参考に、気づき・反省点をふまえ、来年に向けて新たなアイデアを企画して行きます。今後も皆様に一層ご満足いただけますよう、「森松マン」は情報を提供し続けますので、来年の「元気が出る森松展」も是非、ご期待下さい。

弊社の5階展示場は、一部常設となっておりますので、開催中に来場できなかったお客様も、近くにお立ちよりの際は、お気軽にお越し下さい。

森松展実行委員長 安井浩二



25日(土)	24日(金)	23日(木)	22日(水)	18日(土)	15日(水)	14日(火)	11日(土)	10日(金)	4日(土)	3日(金)	2006年 11月 の予定
稲葉友昭さん誕生日	編集会議 18時～	勤労感謝の日 生産会議 18時～	経営会議 13時30分～ CS(顧客満足)向上会議 15時10分～	第三土曜日休み	岩間正美さん誕生日	生地卸組合永年勤続表彰式 15時～20時	第二土曜日休み	尹建平さん誕生日 50周年慰安旅行(～7日まで)	第二土曜日休み 梅田文康さん誕生日 吳亭さん誕生日	文化の日 梅田文康さん誕生日	



第2回 新商品発表会案内

日時 平成18年10月27日(金)13:00～

会場 森松株式会社 本社ビル5F

サークル名	テーマ名	発表者
マッハ匠	カタいマット	堀江 辰造
クリエートV	放熱クッションマット(ノートパソコン用)	安井 浩二
セレクトVI	手作り写真感	長崎 修
ライトSTAFF	スキムブロック	加藤 雅昭

『バスツアー』

小坂美香(ライトSTAFFサークル)



新聞の折り込みチラシに、バスツアーの広告が入っていたのをたまたま見つけたので申し込んでみました。コースはいろいろありましたが、何処に行くのか分からないミステリーツアーと言ったものに行ってみました。行き先は伏せてあるのですが、何処で何をやるのか、何を食べるのかなどのヒントがクイズ形式で書かれているので、長野県に行く事は分かりました。

まず最初にリンゴ狩りをしました。昼食前だったので1個しか食べませんでしたが、それだけで十分お腹いっぱいになりました。本当はお持ち帰りは出来ないのですが、参加者がおばさんばかりだった事もあって、皆かばんにリンゴを隠していました。

リンゴ狩りの後は、昼食の蕎麦と松茸ご飯の食べ放題でした。私はリンゴでお腹がいっぱいだったので、ほとんど食べられませんでした。おばさん達はすごいです。リンゴを食べたばかりなのに、ご飯のお代わりをしていました。その後もいろいろな物を食べたり、見学をしたりしましたが、毎回おばさん達には驚かされました。お土産屋さんに行けば必ず何か買おうし、バスの中では大声でおしゃべりをし、静かだなど思うと食べているか、寝ているかのどちらか。おばさん達を見ていたほうが楽しいくらいでした。

久しぶりの旅行だったので、良い気分転換にもなりました。また機会があれば、行ってみたいと思います。



『元気が出る森松展、来場者がウレシかった』

社長 森 直樹



毎年恒例の森松展、今年は10月5、6日の開催で行われました。

今回も400名近い来場者の皆様を迎えることが出来ました。この場をお借りしてお礼申し上げます、ありがとうございます。

展示会という場を設けることにより、普段なかなかお目にかかることの出来ない方々とも会うことが出来、これこそ展示会の最大の意義ではないかと改めて思いました。

今年のテーマは「情報最前線」～50執念 こだわりの新素材～でした。

近年は高付価値の商品と加工技術、そして素材と新しいものが次々と開発されており、導電性のあるもの、光分解性のあるもの、耐熱性のあるものなどを挙げる事が出来ます。また今回は電子ペーパーの技術を使用したPOPが展示され、徐々に私たちの商売に応用できる範囲が広がってきたのではないかと感じさせる展示内容であったと思います。

50周年を迎え、塩工の発展とともに歩んできた弊社の節目である今回の森松展でしたが、50周年の次は60年、70年と、そしていつかは100周年です。そこで辿り着けるような後継者と組織を作っていくことが私の最大の任務です。数十年後の会社を想像するのも楽しみです。

また来年の森松展にご期待下さい。

naoki@morimatsu.net

50周年記念 anniversary

モーリンググループ 慰安旅行

50周年の節目となる今回の慰安旅行先は中国。2グループに分かれ、以下の日程で開催します!

上海・蘇州コース 11月4日(土)~6日(月)

豫園、外灘、蘇州留園などの名勝見学、上海雑技の鑑賞など。

四川・上海コース 11月4日(土)~7日(火)

弊社合弁先の四川義信公司、上海高佛公司の見学の他、上海コースと同様の観光地巡り。



蘇州留園



豫園



外灘

『長崎へ』

森 ちか



社長のお嫁さんに、出身地の「長崎くんち」というお祭りに招かれたので、10月7日~9日の3連休に長崎へ行ってきました(飛行機に乗ったのは10年位昔だったかなあ...思い出すことも出来ない)。
このお祭りは、市民の氏神様である諏訪神社の秋の大祭です。旧暦の9月9日に行ったことから9日:「くんち」と呼ばれるようになったといわれているそうです。370年もの前からある古い祭り、120~150もある傘鉾や山車を支える人々の衣装にお金がかかっている、きらびやかで勇壮な山車の回転演技に、敷席から見物させてもらって、このような祭りの只中にいる自分が不思議...と感じました。招かれて感謝、感謝でした。
次の日には「長崎さくら」に参加(長崎を自由に散歩、散策する)いろんなコースがありますが、小説や映画にもなった「長崎ぶらぶら節」の文人墨客も思案した?という花街丸山界隈を、市民ボランティアの案内で二時間程、坂の町を散策し快い汗をかきました。このコースを回るにあたってお嫁さんから、映画「長崎ぶらぶら節」のビデオも見ておくのと良いのでとビデオも貸してくれたので、二層味わい深く歩くことができました。お昼からもがね橋付近を歩いてみると山車行列に何度目に出会いました。すぐ横で聞く笛や太鼓や人の掛け声に、祭りだ祭りだの熱気が伝わって、周りを元気な雰囲気包んでいました。それにしても、楽しく旅行するにはこの歳になると足を鍛えておかなければならないと、つくづく思いました。
長崎!!...見たい所が多くあり過ぎて又の楽しみにとつておこう!!

『リフォーム』

岩間正美 (セレクトVサークル)



9月に姉家族が家を新築し実家を出て行きました。私が結婚する時にリフォームした実家も私たちが家族が10年、姉家族が15年住み計25年が経った今では、壁や床がかなり痛んでぼろぼろになっています。
その実家へ息子が結婚して住むことになり、現在リフォームをしている最中です。床の張替えは大工さんをお願いしたのですが、クロスを張り替えるお金までではないので、クロス用のペンキを購入し、私と息子でペンキ塗り等を行います。ムラムラではありますが、タバコのヤニやカビが隠れ少しはまともになったと思います。
まだまだ台所の壁の改修(耐熱ボードやベニヤ貼り)、脱衣所の壁補修を、休日を利用してやらなければなりません、少しずつきれいになっていく実家を見てみると楽しくもありません。
今はホームセンターにいろいろな材料が売っていますので、どの材料を使ってどのように改修しようかいろいろとイメージしながら検討しています。
10月の休日のほとんどを利用してリフォームしなければなりません、息子たちのためにがんばるぞ!!
普段家の事は一切ないので罪滅ぼしもあるのですが...

『若い人も続けられる趣味を持つ』

成瀬勝英 (ライトSTAFFサークル)



休日のある日の午後、久しぶりに友人が訪ねてきた。2年ぶりの再会だが、随分、老け込んだ印象を受けた。だが、言葉を先に切り出したのは友人の方だった。
「お前、何か老けたな、髪の毛も相当...ははは」(私)「お前も相当だ、玄関開けた時、何処のジジイかと思っただろ」挨拶程度の会話では有るが、こんな言葉が互いの印象になるほどの年齢になった事を実感した。
印象を引きずつての事か、会話の内容も老眼鏡が手放せなくなったとか、体の不調などの話になり、まるで病院の診察室の様相である。会話を楽しくむく話題を、最近関心を持っている事や趣味などに向けた。
こちらの話題は最近、夢中になっているインターネットオークションで落札した品の自慢話である。しきりに感心しているようだが、(感心したフリをして聞いてくれているのだろうか?)彼の話題は今、趣味でギター教室をやっているとの事。
小学生の時からクラシックギターを習っていた彼であるが、2年前程、近所の老人会の主催でギター教室の講師として招かれたそうだ。現在12名程の生徒だが、2年前始めた当初は4人程だったとか。土曜の夕刻のみの授業だが、彼は人に教えるのが楽しく、気持ちも充実していると言ふ。
「私」会話が年寄りくさいのは、そのせいなのか?等と冗談を言いつつも良い事を始めたと思う。(友人)「何せ年寄りは、これから増えるばかりだから、今は小遣い程度の稼ぎだけその内、本業と復職が入れ替わっちゃうかもよ」ははは。(私)「お金取るの?」(友人)「当然じゃあ〜ん」(私)「動機は...ともかく、芸は身を助ける事を実践している訳だ。」
友人の言う通り、この先、老人が増える事は事実である。老いて尚人に伝え教える趣味を持つ友人が正直、羨ましく思えた。
少なくとも女房から「貴方が死んだ後、ゴミ(コレクション)は誰が処分するの?」とは言われない趣味を見付けなくては、とは思うのだが...

『憧れの車』

伊藤雅典 (セレクトVサークル)



皆さん、ブジョー2006という車を、ご存知ですか?1999年から日本で発売されたフランス製の車です。発売当初、スタイルが大変良いということで、女性に大変人気の車でした。そのせいか女性向けの車というイメージがあります。実は大変きびきびと走るスポーティーな車です。カースポーツ、特にカーラリーに興味ある方ならよくご存知と思います。
世界ラリー選手権(WRC)で2000~2003年、マカステロンホルムが乗りマニファクチャラータイトルを3年連覇した車です。
ヨーロッパではF1もさることながら、ラリー選手権も大変人気があり、各車メーカーも参入し、車のイメージアップを図っています。F1なども確かに企業のイメージアップにはなりますが、あのような形の車が市販されているわけではないので、購買意欲がなかなか沸きません。しかしラリーカーの場合は市販車のイメージが直接伝わります。(実際、市販車とはまったく別物ですけど...)。
私も大変ラリーが好きで、若いころにはカローラ20をラリー用に改造して乗っていました。よく山道から転落したり、側溝にタイヤを落としたりして、友人には大変迷惑をかけた時期がありました。一度、人手は多い方が良いだろうと言って気を利かせてくれ、友人のおとうさんが一緒に駆けつけて来てくれた時がありました。さすがにちょっと気まずい雰囲気でした。ただただ、ひたすら暗闇のなかで頭をべこべこ下げていた思い出があります。
こんな私ですから、三菱ランサーに乗っていたこともあります。今はもう、三菱の車は乗りませんが...
今は、ブジョーはWRCに2006ではなく3007で出場していますが、マカステロンホルムもフォードに行ってしまう、あまり成績はばつとしません。セブチャン、ロウプのシトロエンの押され気味です。
しかし、一度は乗って見たいですね。ブジョー2006ラリー仕様...